

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	体育の授業以外に1週間に運動やスポーツの総運動時間が60分以上と回答する生徒の割合を70%以上にする。	A	全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、74.5%と目標を上回ることができた(男子82.4%、女子70.6%)。	◎
		食育の推進	外部講師による生徒、保護者を対象とした食育教室を年1回実施する。	A	メグミルクによる生徒、保護者を対象とした食育教室を1回実施し、地域にも参加を呼びかけた。	◎
		健康教育の充実	外部講師による薬物乱用防止教室を年1回実施する。	A	警察署の協力のもと、薬物乱用防止教室を1回実施し、自身の健康・安全面を守る指導を行う場を設定した。	◎
改善方針		体力向上・健康安全な生活・望ましい生活習慣・防犯意識の徹底等、家庭・地域と連携した取組を充実する。				
学校関係者評価委員による意見		食育講座や金融講座のほか、様々な人権教室が充実していた。コロナ禍を経験した子ども達に、コロナ禍の前にもどすという発想でなく、何を子ども達にこの一年間で経験させるのがよいかの思いで教育活動を展開していただいたことに感謝します。また全国体力調査の数値には届いていないということであるが、夏休み、冬休みスポーツDAY開催等の環境をつくるなかで、経年変化の数値をみると、伸びていることが確認できることが素晴らしい。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	潮中シートの活用を通して、本校生徒の実態課題である「家で計画を立てて勉強している」と回答する生徒の割合70%、「先生はあなたの良いところを認めてくれる」と回答する生徒の割合80%を目指す。	B	1つ目の項目に肯定的な回答をした生徒の割合47.6%、(R4,55.0)の数値であった。4月よりクロムを活用した潮中シートに切り替えたところ、7月の学校評価アンケートでは60.6%(R4,59.3)という数値であり改善の兆しが見られる。2つ目の項目に対して肯定的な回答をした生徒の割合は83.3%で目標値を上回った。今後も生徒が安全に生活し、安心してSOSを出すことができる教育環境を充実する。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	地域人材等を活用した学習会を年2回実施し、個別の学びを充実させる。生徒会及び小中連携が主催の地域清掃活動を計2回実施。地域行事の参加を呼びかけ、ふるさと貢献の心を育む活動を地域とともに推進する。	A	地域人材を活用した学習会を多く実施することができた。その活動とともに、小中連携・地域との協働意識も高まり、ふるさとを大切にする態度と心を養う場として2度の「地域清掃活動」を設定することができた。	◎
改善方針		・改善した潮中シートを使用し、生徒の生活・学習習慣の改善につとめ、生徒の生活及び学びの自己調整力を育成してきた。さらに、家庭や地域との連携により、地域ぐるみで子どもの成長を喜び合える環境を充実する。				
学校関係者評価委員による意見		この2年、小中連携が進み、特に地域とのつながりが広がった。コロナ禍があげ、地域クレーン作戦や潮祭りの再開に地域の人々から喜びの声があがっている。R6のコミュニティ・スクールスタートにあたり、地域ぐるみで子どもの学びと生活にかかわり、子どもの生きる力につなげていきたい。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中一貫教育推進事業である外国語科加配事業を充実させ、小学校児童が「英語は好き」と回答する割合90%以上を目指す。潮見台小学校との合同研修会(授業交流)を年2回、小学校への乗入れ授業を年1回以上、高校からの乗入れ授業を年1回実施する。	C	外国語加配事業により、潮見台小学校、奥沢小学校との連携を密にし、中一ギャップ解消にむけた取組、学びと生活のつながりを意識した接続を進めることができた。左記質問項目に対して肯定的な回答をした児童は69%という数値になり、目標値には大きく下回った。課題を把握し、授業改善を行う必要がある。小学校との合同研修会は年2回、推進委員会には必要に応じて行いながら、乗り入れ授業(家庭科幼児分野、潮陵高校英語授業)、部活動見学会、美術作品交流を実施した。	◎
		教育環境の整備・充実	GIGAスクール構造の一層の推進を図り、ICTを効果的な授業実践に係るミニ研修を年2回以上実施する。	A	ICTの効果的な活用を充実するため、校内研修でのミニ研修を3回行う等、質量ともに充実させた。また各教科での実践交流、研修会での資料交流等を行い、研修の機会を充実した。全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の「ICT活用頻度」に関する項目で、本校が、市内中学校で最も低い結果であることを真摯に受け止め、今後も、重点的に進めていく必要がある。	◎
		教職員の資質・能力の向上	教職員一人一人のライフステージに相应しい研修会への参加を促し、1人講座以上の参加を目指す。	A	研修部長を中心に、教職員一人一人の年齢、キャリア、ライフステージに相应しい研修会への参加を促し、平均10講座以上の参加があり、教職員の質を高め、学び続ける教員像の実現にむけた組織体制及び学校力を築くことができた。	◎
		学校運営の改善	潮見台地区の小中一貫教育ランドデザインを策定し、小中両校のランドデザインの改善につなげる。(年1回)	A	潮見台地区の小中一貫教育ランドデザインを策定し、小中両校のランドデザインの改善につなげるができた。また、小中を目指す子ども像を明確に位置付けたことで、授業規律の統一、授業改善のベクトルを同一化する土台を築くことができた1年であった。	◎
		学校安全教育の充実	避難訓練を年2回以上実施(小中合同による地震津波を想定した避難訓練を含む)。警察官による防犯教室を年1回以上実施する。	A	避難訓練を年2回以上、防災教室を一回実施した。小中合同による地震津波を想定した避難訓練は、猛暑のため、日にちをずらし、同目的での実施とした。また警察官による防犯教室を実施した。	◎
改善方針		・小中一貫推進事業の一環として中学校側で「英語科CAN-doリスト」を整備した。整備したものを小中の英語科の授業で活用していく。 ・安全教育を充実させる。(いじめに係る教育を重視、多くの教室を設定した1年だった) ・徹底した危機管理体制を整え、日々の教育活動にあたる。(教職員の危機管理意識の向上の必要性を発信しつづけ、設備・体制の充実に努めている) ・保護者との情報共有に努める。(学級・学年通信・学校だより、HPによる情報発信、保護者会、PTA等での情報発信と交流の場を大切にしよう努めている)				
学校関係者評価委員による意見		子どもの安全を第一に考えて動いてくれているのが伝わります。校内、通学路等の子どもの安心安全にかかわる教育環境が整備された2年間だった。天候の変化や、状況に応じた学校からの発信は、丁寧でありたい。今後も、地域と学校が連携し、危機管理の目を大切に、子どもたちの命を待ってほしい。ホームページ上で紹介される子ども達の活躍が嬉しい。潮見台中学校区として小中連携、安全教育、社会教育の充実をさらにひろげていく教育活動を維持していけるとよい。社会教育の必要性を今こそ感じる。				
社会教育に関連する目標(目標6~8)		・図書館の利活用を促進する。図書の貸し出し数を一人あたり5冊以上にする。 ・アンケートにおいて、不読生徒を25%以下にする。	B	図書担当教諭(及び学校司書)と図書局が連携し、①朝読書の充実②学校司書による図書だより発行③学校だよりの司書コーナーによる啓発等を行っている。また、市立小樽図書館のSL便による蔵書の充実やまちなか図書館の開設等により図書環境が整えられた。貸出し冊数は到達目標(750冊)に、到達していない(689冊)。生徒アンケートにおいて、不読生徒の割合は、1年(43.9%)、2年(32.6%)、3年(19.0%)と学年が進むにつれて減っているが、全校数値は31.7%であった。	◎	
改善方針		・社会教育の充実を図る。 ・市内施設を利用し、子どもの学びを広げる。 ・学校、保護者、地域(町会)との共同体験の場を充実させる。				
学校関係者評価委員による意見		・「読めない」「書けない」という本校生徒の課題を学校としてとらえ、学校における読書環境整備の本拠地として「学校図書館」の整備に尽くしている様子が伝わります。市立小樽図書館との連携や、朝の読書活動や図書館に配備された新聞を活かした「NIEタイム」の取り組み等、現代的課題を解決する能力の育成に向けた策がとられているのが良い。読書分野は一朝一夕に変化の出るものではないので、今の動きを継続して取り組んで欲しい。				